



「オーバーツーリズム (観光過剰)」？

都市観光の予測を超える成長に対する
認識と対応

要旨





国連世界観光機関 (UNWTO)、ブレダ応用科学大学レジャー観光ホスピタリティ専門技術センター (CELTH) 及び NHL ステンデン応用化学大学ヨーロッパ観光未来研究所 (ETFI) の協働の成果である本報告書はブレダ大学准教授コー・コーエンズ博士、NHL ステンデン教授アルバート・ボスマ博士並びに NHL ステンデン応用化学大学ベルナデット・パップ研究員によってまとめられた。

UNWTO での編集と校閲は、観光市場インテリジェンス・競争力部門部長のサンドラ・カルヴァオン氏とディアナ・オリビエラ氏が担当した。

また、オランダ・ヨーロッパ観光未来研究所客員教授兼ニュージーランド・ビクトリア大学ウェリントン校准教授のイアン・ヨーマン博士には本報告書第4章「観光市場における今後の都市観光の原動力」に貢献いただいたことに、UNWTO として最大の謝意を表したい。

ジュリア・バウネマン氏、ソフィア・グティエレス氏、クリス・インブセン氏、ミシェル・ジュリアン氏には、本報告書にお寄せいただいた助言に対し特に御礼申し上げます。また今回の協働の提案と作業全体を通じていただいたご助力に対して、UNWTO 及び著者から CELTH 所長のメノ・ストックマン氏とハンス・ドミニカス氏に謝意を表したい。

最後に各都市及びヨーロッパ観光協会 (ETOA) (特に故ニック・グリーンフィールドに感謝申し上げます) からの有益な御支援、そして調査の様々な段階で面談に応じていただいた多くの回答者の協力がなければ本報告書は完成しなかったと考える。



序文

近年、「オーバーツーリズム」や「観光客嫌悪症」といった言葉が大きく取り上げられてきました。これらは増大する都市の目的地（デスティネーション）への観光客流入と、観光による都市とその住民に対する影響への対応という課題を反映したものです。

現在世界の半分を超える人口が都市部に住んでおり、推計では2050年までにこの比率は70%に達します。それに加えて都市への観光客数の増大は、自然資源の利用増や社会文化的影響をもたらし、インフラ、交通機関などの設備にとって負担増となります。

訪問客と住民双方に等しく利益になるよう観光に適切に対応することは、観光部門にとって基本的な課題です。UNWTOは「オーバーツーリズム」などの流行語が現われるはるか以前から、観光におけるキャリング・キャパシティを「物理的、経済的、社会文化的環境を破壊することなく、また、訪問者が許容できないほど満足度を低下させることなく、1か所のデスティネーションを同時に訪れることができる最大人数」と定義してきました。

観光は、訪問客と現地のコミュニティの両方を考慮しつつ開発、管理されて初めて持続可能なものとなるでしょう。それは地域社会の関与、混雑の管理、季節性の低減、収容力の限界と各デスティネーションの特性を考慮した入念な計画立案、商品の多様化によって達成することが可能となります。

本報告書では、ヨーロッパ諸都市における住民の観光への意識を詳しく調査し、都市部における観光客流入の分散を管理・促進するための68の対策を提案しています。

現在、都市観光が直面する課題への対処は、一般に認識されているよりはるかに複雑な作業です。都市観光にとっての持続可能なロードマップを定め、より広範な都市計画に観光セクターを位置づけるという喫緊の課題があります。

観光は、世界中で絶え間なく成長を続け、社会経済的発展、雇用、インフラ開発、輸出収入につながっている数少ない経済部門です。

したがって、都市観光が世界的な課題（アジェンダ）における諸都市の役割に沿うよう万全を期することが非常に重要です。すべての人々が国連のニューアーバンアジェンダと17の持続可能な開発目標、すなわち目標11「都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする」を優先しなければなりません。

国連世界観光機関 (UNWTO)
事務局長
ズラブ・ポロリカシュヴィリ



要旨

国連世界観光機関 (UNWTO)

過去数十年間で都市部は急速に変容し、その人口は著しく成長した。国際連合によれば1990年には世界の人口の43%が都市部に住んでいたが、2015年にこの割合は54%に成長し、2030年までには60%に達すると予想されている¹。

この急速な都市化と平行して、経済開発、移動費用の低廉化、旅行手続の円滑化、先進国・地域と新興国・地域の経済における中間層の成長に導かれた観光セクターの成長により、ビジネスとレジャーを目的とする旅行者にとって都市はますます人気のデスティネーションになった。過去数十年の国際観光客の変化は、1950年に2,500万人だった国際到着数が2017年には13億人をを超えるまでになった。UNWTOの予測では、観光部門は2030年まで年3.3%の成長を続け、18億人の観光客が国境を越えることになるとしている。

今日、国内観光と国際観光の両方が生み出す収入は、多くの都市とその周辺の社会経済的、文化的発展に大きく貢献している。しかし、都市観光の成長はまた、持続可能な成長を確保し、天然資源の利用、社会的・文化的影響、そしてインフラ、移動性、混雑への対応という点で、観光の発展が惹起する可能性のある悪影響を最小限にする取組を徹底しなければならないという重要な課題も生み出している。近年のこうした課題は、都市のシェアリングエコノミーによる観光サービスとしての観光用宿泊施設の供給増大と切り離せないものになっている。

その結果が、過度な混雑、騒音、その他観光客にまつわる煩わしさといった問題を認識したことによる、地域住民の間で台頭する訪問客に対する否定的意見や、一部の都市における

抗議の声の発生、メディアにおける「オーバーツーリズム」や「観光客嫌悪症」といった言葉の広まりである。都市における訪問客への対応、特に住民と訪問客との関係から生じる課題の理解を深めるため、本報告書には、提言に加え、ヨーロッパの8つの都市、アムステルダム、バルセロナ、ベルリン、コペンハーゲン、リスボン、ミュンヘン、ザルツブルク、タリンにおける観光に対する住民の意識分析を掲載した。

「オーバーツーリズム」について語るときに意味するもの

2016年に、スキフト (Skift) 社が「オーバーツーリズム」という言葉を作ったと言われている(後に同社が商標化)²。それ以降「オーバーツーリズム」にはいくつかの定義が登場した。本プロジェクトで協働している大学によれば、「オーバーツーリズム」は「デスティネーション全体又はその一部に対し、明らかに市民の生活の質又は訪問客の体験の質に悪い形で過度に及ぼされる観光の影響」と定義できると言う。レスポンシブル・ツーリズム・パートナーシップという団体は、オーバーツーリズムを「サービス事業者、顧客、地域住民、訪問客を含む全ての人たちが、訪問客が多過ぎて、その地域での生活の質又は体験の質が受け入れられないほど悪化していると感じるデスティネーション。それは観光を通じてその場所をより住んでよし、訪れてよしとするための「責任ある観光」と相反するものであり、訪問客と観光客の双方が同時にこの悪化を経験する現象」³としている。

本質的に、これは適切な管理の欠如と無秩序な開発に尽きることである。観光客の増加に伴い、観光は訪問客と地域のコミュニティ双方にとって持続可能な形で開発と管理が行わなければならない。「オーバーツーリズム」と呼ばれているものに関して言えば、そこに解決の鍵がある。

観光は地域社会とその構成員にとって観光という利点を共有する機会でもあり、そのため観光部門と地域社会との関係を強化する必要がある。この点は地域社会の関与、混雑の管理、季節性の低減、収容力の限界とデスティネーションの特性を考慮した入念な計画立案、また商品の多様化を通じて達成できる。従って、UNWTOが「物理的、経済的、社会文化的環境を破壊することなく、また、訪問客の満足度を許容できないほど低下させることなく、1ヶ所のデスティネーションを同時に訪れることができる最大人数」⁴と定義するデスティネーションの観光収容力は、観光を開発する側にとってもこれに対応する側にとっても、同様に重要な課題である⁵。

さらに、観光による混雑、収容力、「許容できる変化の限度」のモニタリングとこれに対する対応の仕組みを定義し、設定する際には、量的指標を質的指標と共に検討し、観光の影響について包括的視野を持つことが不可欠である。

俗説の否定

この議論を行うためには観光による混雑にまつわる4つの俗説を否定しておくことが重要である。

1. 観光による混雑は訪問客の数だけでなく、それに対応できるキャパシティが関係する。多数の訪問客に対処できる都市がある一方、はるかに少ない訪問客に苦勞する都市がある。観光による混雑の原因について理解を深めるため、「オーバーツーリズム」につながる3つの主要因を明確に詳述しておくことは有用である⁶。

I. 訪問客が増え過ぎ、恐らく季節によって更に悪化している：この場合、迷惑に感じられるのは訪問客の絶対数である。これはその都市の側の過密感かもしれないし、あるいはその都市にもはや住民が訪問客を避けられる快適な空間がないという印象かもしれない。

II. 訪問客による悪影響が大き過ぎる：この場合、訪問客の影響が悪い方に捉えられている。これは観光名所の近くに停車するツアーバスによって道路が渋滞する場合や、大勢の観光客の団体が大通りを不注意

でふさいでしまうため通りが混雑する場合などがある。それはまた、騒音公害、乱暴な振る舞い、その他訪問客が引き起こしていると考えられる喧噪といった問題を伴う(地元の人々による喧噪の場合を含む)。

III. 訪問客による経済的、物理的影響が大き過ぎる：訪問客向けのサービスの物理的影響も不安を引き起こすことがある。例えば、ホテル、観光客向けの施設や小売店の過度な急増などがある。

2. 観光による混雑は一般に、市全域の問題というより局所的なものである。観光による負担は大部分がその都市の人気エリアや主な観光名所に関係している。にもかかわらず訪問先として人気の都市の大半にでさえ、観光客が少ないか全くいないエリアを見つけることが可能である。こうしたエリアは主な観光名所や中心部の近くで見つかることもある。したがって、解決策を探す際には、観光による混雑が問題となっているケースについて個々の性質と場所を詳細に調査することが特に重要である。

3. 観光による混雑は観光に限った問題ではない。観光による混雑は、都市の資源とインフラの全体又は一部が過度に負荷を受けているときに認知できる。しかし、観光客やその他の訪問客だけがこれらのサービスとインフラを利用しているわけではない。住民や通勤者もまた、一時的にその都市を訪れている人々と空間とサービスの利用を競い合っている。さらに、シェアリングエコノミーによる観光サービスを通じた短期の賃借の拡大など、観光による混雑と関連付けられがちな問題は、観光部門だけではなく、不動産市場にも関係している。観光による混雑への対応は、一般に考えられているよりもはるかに複雑な問題であり、そのため都市全体の展望において包括的に扱う必要がある。

4. 技術的解決策あるいはスマートソリューションは重要だが、それだけでは観光による混雑の問題は解消されないだろう。スマート技術は混雑の管理に取組むための最も効率的な解決策だと考えられている。しかしこうしたツールに計り知れない潜在的利点があるとしても、それだけでは十分ではない。都市観光が直面する課題への対処には複数の利害関係者の間での強力な連携が求められ、特に利害関係者同士が相反する利害を抱えている場合は、長期的な取り組みとなる。



主な結論

- 急速な都市化と都市部における昨今の観光の成長が、都市観光に対する著しい需要の増大につながっている。
- 移動性の向上、中間層の成長、より手頃な価格の交通機関と宿泊の選択肢といった世界の観光の動向は、引き続き都市観光の需要増大を促すだろう。
- 適切に管理された観光は、ニューアーバンアジェンダと17の持続可能な開発目標、すなわち、目標11「都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエント（強靱）かつ持続可能にする」の推進に貢献できる。
- 「オーバーツーリズム」は観光による混雑への対応と観光収容力という既存の概念を表す新しい言葉である。
- 観光による混雑、収容力、「許容できる変化の限度」のモニタリングと対策の仕組みを定義し、設定する際には、量的指標を質的指標と共に検討し、デスティネーションとその住民に対する観光の影響について包括的視野を確保することが不可欠である。
- 都市における観光開発への対応は、より大きな範囲の都市計画の一部として位置づける必要がある。観光政策立案者とDMO(デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション)の活動範囲は限定的であり、これらだけでは観光による混雑と都市に与える観光の影響という課題に 대응することができない。
- 都市のデスティネーションにおける観光による混雑は、様々なレベルの観光行政および非観光行政、民間部門、地域のコミュニティ、そして観光客自身が緊密に協力し合って初めて対応が可能である。
- 今日都市が直面する経済、社会、環境上の問題は複雑であり、利害関係者が自らの現状の慣行を再考し、革新的な解決策を探すことが求められている。
- 対策は観光客の数と観光客の行動を変えることのみを焦点とすることはできず、現地の利害関係者にも焦点を当てるべきである。観光のプラスの側面を住民が認識し、理解できる状態を確実に維持するため、住民の懸念と不満を理解し、それを観光振興計画の中にも含めることが必要である。
- 住民の観光に対する態度を理解したうえで、地域のコミュニティに参与してもらうことが最も重要である。本報告書のためにヨーロッパ8都市(アムステルダム、バルセロナ、ベルリン、コペンハーゲン、リスボン、ミュンヘン、ザルツブルク、タリン)の住民を対象に実施された調査によると、大半の住民は「訪問客数の成長を制限すべきではない」と考えており、観光の開発とマーケティングを止めるべきだと考えている住民はごく少数である。
- また、この調査から、住民が認識した観光による最も良いと思われるプラスの影響とは、国際的な雰囲気の高まり(都市における多文化環境)、イベントの増加、イメージの向上、都市の歴史的地区の保護、伝統的建築の再生であることが分かっている。その一方で、最もマイナスの影響として、住宅価格の上昇、タクシー料金の上昇、店舗での価格の上昇、レストランとカフェの値段の上昇、公共交通機関の料金の上昇が挙げられている。
- 本報告書では、都市における訪問客の増加について理解と対応を助ける11の戦略と68の対策を明らかにしている。それでも対策の有効性は個々の状況に大きく左右される。万能の解決策というものには存在しない。都市の中ですら近隣同士で対応策が異なる場合がある。
- 提案した戦略の内、本調査の対象となった住民は、以下の対策に好意的な傾向がある。
 - ・都市のインフラと設備を改善する。
 - ・現地の住民および現地の企業とコミュニケーションを図り、観光の計画立案に参与してもらう。
 - ・都市での振る舞い方に関して訪問客ともっとコミュニケーションを図る。
 - ・1年の間で訪問客を分散させる。
 - ・住民と訪問客が会い、融和できるような都市体験を考案する。
- どういった戦略が各デスティネーションにうまく適用できるかを判断するには、包括的な評価と計画が不可欠である。現在観光による混雑の問題を抱えていないデスティネーションは、訪問客数の増加による潜在的影響を認識し、それによって計画を立案する必要がある。
- 都市観光は都市の社会経済的発展とその住民の幸福に重要な貢献をするものであり、住民、投資家、訪問客のすべてにとってより良い都市の創造に寄与するはずである。

都市における訪問客の増加に対応するための戦略と対策

都市における訪問客の増加に対応するための戦略と対策

戦略	対策
戦略1 都市内外での訪問客の分散を促進する	<ul style="list-style-type: none"> - 都市とその周辺の訪問客が少ない場所で開催するイベントを増やす - 都市とその周辺の訪問客が少ない場所で訪問客向けの名所と施設を開発し、PRする - 名所の収容力とそこで費やす時間を増やす - 都市とその周辺の共通のアイデンティティを創出する - 地域の交通手段に自由に乗り降りできるトラベルカードを導入する - 都市全体をインナーシティに指定し、訪問客が少ない場所への訪問を活性化させる
戦略2 時間による訪問客の分散を促進する	<ul style="list-style-type: none"> - オフシーズン中の観光体験をPRする - 変動価格制を促進する - オフシーズン中のイベントを活性化させる - リアルタイムでモニタリングし、人気の名所やイベントに時間制限を設ける - 新しい技術（アプリ等）を利用して、時間の観点で観光客の分散化を促進する
戦略3 訪問客の新たな旅行ルートと名所を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> - 観光案内所を含め、都市の玄関口でも訪問客が訪れる各所でも新たな旅行ルートをPRする - 新たな旅行ルートと名所の中で、複数の場所が連携して割引を行う - 都市の隠れた観光資源に光を当てるガイドブックや書籍を刊行する - ニッチな訪問客向けの動的な体験の場とルートを創出する - 都市の訪問客が少ない場所を通るガイドツアーの開発を促進する - 著名な史跡や名所のバーチャルリアリティアプリケーションを開発し、現地の訪問を補完する
戦略4 規制を再検討し、調整する	<ul style="list-style-type: none"> - 観光名所の営業時間を再検討する - 人気の名所を多人数の団体が訪れる際の規制を再検討する - 都市の繁華街における交通規制を再検討する - 訪問客が都市の周縁の駐車場を利用するよう徹底する - 適切な場所に長距離バス専用の降車ゾーンを設ける - 歩行者専用ゾーンを設ける - シェアリングエコノミーによる観光サービスに対する規制と課税を再検討する - ホテルその他の宿泊施設に対する規制と課税を再検討する - 都市、重要エリア、名所などの収容力を明確化する - 旅行会社の許認可制度を検討し、すべての旅行会社のモニタリング等を行う - 観光客が関わる活動に関して都市の一定エリアへの立入りに対する規制を再検討する
戦略5 訪問客のセグメンテーションを強化する	<ul style="list-style-type: none"> - 具体的な都市の状況と目的に応じて影響の低い訪問客セグメントを特定し、ターゲットとする - リピーターをターゲットにする - 特定の訪問客セグメントによる都市への訪問を抑止する
戦略6 確実に地域のコミュニティが観光から利益を得られるようにする	<ul style="list-style-type: none"> - 観光分野における雇用水準を引き上げ、働きがいのある人間らしい仕事（デーセントワーク）への雇用の創出に取り組む - 観光のプラスの影響をPRし、地域のコミュニティに観光セクターについての意識と知識をもたらす - 新たな観光商品の開発に地域のコミュニティを関与させる - 地域のコミュニティの需要と供給の潜在力を分析し、観光のバリューチェーン（価値連鎖）への組み込みを促進する - 住民と訪問客を考慮に入れてインフラとサービスの質を向上させる - 観光を通じて貧困地区の開発を活性化させる

都市における訪問客の増加に対応するための戦略と対策

都市における訪問客の増加に対応するための戦略と対策

戦略	対策
戦略7 住民と訪問客 双方の利益になる 都市体験を 創出する	<ul style="list-style-type: none">- 住民のニーズと要望に沿って都市の開発を進め、訪問客を一時的住民と捉える- 住民と訪問客の参加を促進する観光体験と商品の開発を進める- 現地の祭りや活動に訪問客向けの施設を組込む- 都市の観光大使の職を設けPRする- ストリートアートなどの芸術文化構想を促進し、都市に対する新鮮な視点をもたらして新しいエリアへの訪問を拡大する- 観光名所の営業時間を延長する
戦略8 都市の インフラと 設備を改善する	<ul style="list-style-type: none">- バランスの取れた持続可能な交通管理に向けた全市的な計画を作成する- 主要ルートが大量の観光活動に対応し、ピーク時間帯には補助ルートを利用できるよう徹底する- 都市の文化的インフラを改善する- 案内標識、翻訳資料、掲示を改善する- 公共交通機関を訪問客に適したものにす- ピーク時間帯に訪問客専用の交通機関を設ける- 適切な公共施設を用意する- 安全なサイクリングルートを設け、レンタサイクルの利用を促進する- 特定の安全で魅力あるウォーキングルートを設定する- 誰もが参加できる観光の原則に沿って、ルートが体に障害のある人や高齢者に対応するよう徹底する- 文化遺産と名所の質を守る- 観光用施設のピーク時間帯に清掃の体制が整うよう徹底する
戦略9 地域の 利害関係者と 意思の疎通を図り、 関与してもらう	<ul style="list-style-type: none">- 観光に関する管理団体（すべての利害関係者を含む）の設立と定期的な会合の開催を実現する- 提携先等向けの事業用開発プログラムを企画する- 住民向けに地域における協議の場を設ける- 住民その他地域の利害関係者を対象に定期的に調査を実施する- 地域の住民がソーシャルメディアで自分の街に関する興味深いコンテンツを発信することを奨励する- 住民たち自身の行動に関して、住民と話し合える機会を設ける- ばらばらになっているコミュニティを1つにまとめる
戦略10 訪問客と意思の 疎通を図り、 関与してもらう	<ul style="list-style-type: none">- 訪問客の間に観光の影響についての意識を醸成する- 現地の価値、伝統、規制について訪問客を啓発する- 交通規制、駐車場、料金、シャトルバスサービスなどについて適切な情報を提供する
戦略11 モニタリングと 対策の手段を 定める	<ul style="list-style-type: none">- 季節による需要、到着数、消費支出の変動、観光名所の訪問パターン、訪問客のセグメントなど 主な指標をモニタリングする- ビッグデータと新技術の利用を進め、観光の実績と影響のモニタリングと評価を行う- ピーク時間帯と緊急時向けの危機対応計画を作成する

政策の提言

本報告書で提案する戦略の実行は、都市観光の成長への対策に役立ち得るが、都市観光の長期的な持続可能性は、以下のような重要な政策措置の実施にかかっている。

1. 都市観光政策が、都市の世界的戦略、国連のニューアーバンアジェンダと17の持続可能な開発目標、すなわち目標11「都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエント（強靱）かつ持続可能にする」、そしてUNWTO世界観光倫理憲章の原則と合致するよう万全を期す。
2. その都市並びに特定のエリアと名所の収容力の明確化など、持続可能な都市観光のための戦略的長期計画を定める。これは特に訪問客の分散、訪問客のセグメンテーション、新たな旅行ルートと名所のより効果的な開発を目指す戦略を実行する際に有用である。
3. 該当するすべての利害関係者が関わる参加プロセスを通じ、観光が都市へ与える許容できる影響度を判断する。これにより、地域のコミュニティが利益を得、訪問客と住民の共通の都市体験を作ることが容易になり、住民とのコミュニケーションに役立つ。
4. 全レベルの行政当局（観光および他の関係する行政当局）、民間部門、地域のコミュニティを関与させる統治モデルを設定する。特に都市のインフラの改善には他の部局との協力が求められるが、事実上すべての戦略にとって、観光という分野をも超えた複数レベルでの行政当局間のさらなる協力が大いに有益である。
5. 関係するすべての利害関係者間の意思疎通及び連携を強化する仕組み作りを促進する。デスティネーションの管理方針と対策は個々の利害関係者が取り組むよりも、全ての利害関係者が共に取り組んでいくほうが、はるかに効果的であろう。
6. 地域のコミュニティが観光部門に参加するよう促進し、観光が富の創出とディーセントな雇用につながることを保証して、地域のコミュニティを観光バリューチェーンにしっかりと組み込む。最初から地域のコミュニティを組み込めば、最初から確実にコミュニティが観光から利益を得られ、地域の利害関係者を1つにまとめるのに役立つ。

7. 地域のコミュニティの観光に対する認識を定期的にモニタリングし、住民に観光部門の価値をPRする。これにより地域のコミュニティの懸念を早い段階で突き止め、認識された問題に対処するための対応戦略を共同で策定することが可能となる。
8. 収容力、移動性、自然資源と文化資源の管理、住民の観光に対する態度といった重要事項についてモニタリングし、エビデンスに基づく意思決定と計画立案を行うことを促進する。
9. 技術、イノベーション、提携に投資してスマートシティを促進し、技術を最大限活用して持続可能性、アクセスの容易さ、イノベーションに対応する。
10. 都市における時間と場所に関する需要の分散を可能にする革新的な商品と体験を促進し、長期的なビジョンと戦略に従って適切な訪問客セグメントを引きつける。
11. 戦略的な展望とシナリオの設計などの手法により、将来の計画を立案する。流動的で移ろいやすく、不確かで複雑な今日のグローバルな開発には、過去の利用（のみ）ではなく、変化の推進力と主な不確定要素を特定し、妥当と思われるシナリオを作成するという取り組み方が求められる。
12. 訪問客を一時的な住民と捉え、観光政策が確実に訪問客と住民の関与を促進するよう図り、全ての人々にとっての都市を構築する。

文末脚注

- 1 United Nations, Department of Economic and Social Affairs (2018), *World Urbanization Prospects: The 2018 Revision* (オンライン). 以下で閲覧可能: www.esa.un.org (2018年7月28日)
- 2 Ali, R. (2016), 'Exploring the Coming Perils of Overtourism', *Skift*, 23-08-2016 (オンライン). 以下で閲覧可能: www.skift.com (2018年7月7日)
- 3 Responsible Tourism (n.d.), *OverTourism* (オンライン). 以下で閲覧可能: www.responsibletourismpartnership.org/overtourism
- 4 World Tourism Organization (2004), *Tourism Congestion Management at Natural and Cultural Sites*, UNWTO, Madrid.
- 5 Koens, K. et al. (2018), *Understanding 'overtourism' in a city context* (作成中).
- 6 Rosenow, J.E. and Pulsipher, G.L. (1979), *Tourism: The Good, the Bad and the Ugly*, Century Three Press, Nebraska.

Copyright © 2018, World Tourism Organization (UNWTO); Centre of Expertise Leisure, Tourism & Hospitality; NHTV Breda University of Applied Sciences; and NHL Stenden University of Applied Sciences

写真提供 表紙の写真 © Alisa24 | Dreamstime.com
2ページ: © Rosshelen | Dreamstime.com
3ページ: © 国連世界観光機関
4ページ: © Bruno Monteny | Dreamstime.com
6ページ: © Axylexu | Dreamstime.com

2018年に発行の 'Overtourism'? - Understanding and Managing Urban Tourism Growth beyond Perceptions, Executive Summary の日本語版 summary:DOI:<https://doi.org/10.18111/9789284420070>

オーバーツーリズム (観光過剰) 都市観光の予測を超える成長に対する認識と対応 要旨

ISBN(print) : 978-92-844-2065-0
ISBN(electronic) : 978-92-844-2066-7 | DOI: 10.18111/9789284420667

出版 国連世界観光機関 (UNWTO) (スペイン・マドリード)
初版 2018年
All rights reserved.

国連世界観光機関 (UNWTO)
Calle del Poeta Joan Maragall, 42
28020 Madrid
Spain

電話 : (+34) 915 67 81 00
FAX : (+34) 915 71 37 33
Website : www.unwto.org
Email : info@unwto.org

日本語版の作成は、UNWTO 駐日事務所が行いました。
UNWTO 駐日事務所 (本部・奈良)
UNWTO 駐日事務所 東京事務所
Website: <https://unwto-ap.org/>

この出版物の中で用いられた名称及び資料の提示は、いかなる国、領土、都市、若しくは地域又はその当局の法的地位についても、その国境地帯又は境界の画定についても、編集者としてのいかなる意見の表明も意図するものではありません。

出所 : World Tourism Organization (UNWTO); Centre of Expertise Leisure, Tourism & Hospitality; NHTV Breda University of Applied Sciences; and NHL Stenden University of Applied Sciences (2019), *'Overtourism'? - Understanding and Managing Urban Tourism Growth beyond Perceptions, Executive Summary Japanese version*, UNWTO, Madrid,
DOI: <https://doi.org/10.18111/9789284420667>

国連世界観光機関 (UNWTO) の共同出版物は、すべて著作権で保護されています。したがって特段の指定がない限り、UNWTO の共同出版物は、写真複写、マイクロフィルム、スキャンを含め、電子的であれ機械的であれ、いかなる形式又は手段によっても、事前の書面による許可なく、どの部分も複製、検索システムへの保管又は利用をすることはできません。国連世界観光機関 (UNWTO)、レジャー観光ホスピタリティ専門技術センター、NHTV ブレダ応用科学大学、NHL ステンデン応用化学大学は、本作の普及を奨励しており、UNWTO と米州機構の共同出版物に関する許可、許諾及び翻訳の要請についても検討します。

スペイン国外における UNWTO の著作物の複製許可については、CEDRO の提携組織に御連絡ください。双務契約が実施されています (www.cedro.org/en を参照)。

他のすべての国、またその他の許可、要請については、国連世界観光機関に直接ご連絡ください。
申し込みについては右記を御覧ください : <http://publications.unwto.org/content/rights-permissions>



訪問客と住民双方に等しく利益になるように都市における観光流入に対応することは、観光部門にとっての基本的な課題です。住民の観光に対する態度を理解し、成功する持続可能な観光戦略の開発を実現することが不可欠です。

本報告書は、ヨーロッパ8都市（アムステルダム、バルセロナ、ベルリン、コペンハーゲン、リスボン、ミュンヘン、ザルツブルク、タリン）における観光に対する住民の意識を分析し、都市のDESTINATIONにおける訪問客の増大についての理解と対応を助けるための11の戦略と68の対策を提案しています。

本報告書で行った政策提言を実践すれば、ニューアールバンアジェンダと持続可能な開発目標に貢献できる、包摂的かつ持続可能な都市観光を推進することができます。

国連世界観光機関（UNWTO）は、国連の専門機関であり、誰もが参加できる持続可能な責任ある観光の促進に重要かつ中心的な役割を担う国際機関です。観光政策における国際的な課題や実践的な観光知識に関する交流の場としての役割を果たしています。UNWTOは158か国、6地域、2常任オブザーバーおよび500を超える賛助加盟員で構成されています。



UNWTO

World Tourism Organization (UNWTO)

www.unwto.org



9 789284 420650